

## 北区×東京書籍が描く「未来の学び」のカタチ

### ～しぶさわくんFMローカルポッドキャストフェス 2026 公開収録～

#北区 #東京書籍 #教育先進都市・北区 #おしゃべりな理科 #LP フェス 2026



左から、平田賢さん、やまだ加奈子区長、福田晴一教育長、森田雄介さん

2026年3月28日(土)、29日(日)、東京都北区の飛鳥山公園にて「第26回 北区さくら SA-KASO まつり」と地域密着型イベント「ポッドキャストフェス トーキョー2026」が共同開催されました。29日に行われた地域密着インターネットラジオ局「しぶさわくんFM」の公開収録には、ゲストとして福田教育長とともに、同じ北区に本社がある縁もあって、Podcast 番組「おしゃべりな理科」を配信中の東京書籍の森田雄介さんも登壇。「デジタルとアナログの在り方」など今後の教育のあり方をテーマに盛り上がりを見せた収録の様子をレポートします!

## 東京都北区の教育 DX：「きたコン」「きたらっち」

まず、ナビゲート役のやまだ区長から、北区が最優先事項として掲げる「子どもの幸せナンバーワン」ビジョンおよびそれを具現化するための「教育先進都市・北区」の構想の説明がありました。「これからの日本を支え、私たちを支えてくれるのは今の子どもたち。彼らをどう育てていくかは、私たち大人の大きな責任である」と語り、教育の重要性を指摘。その上で、本格的な議論に入りました。

まず福田晴一教育長からは、北区のビジョンを支える具体的な ICT 施策の紹介がありました。北区では児童生徒に一人一台配布されているタブレット端末を「きたコン」（北区のコンピュータの略）として統一した名称としています。そのような「きたコン」の毎日持ち帰りを徹底することで、「クラスルーム」という機能を使って、欠席連絡や先生への悩み相談がデジタル上で完結します。福田教育長は「家庭と学校が 24 時間繋がる一体感がこの取り組みの強み」とであると熱く説明します。

また、プログラミング教育においては、「スクラッチ (Scratch) 」を独自にカスタマイズした「きたらっち」を同区の公立の小・中・義務教育学校の全校で活用。低学年から段階的に学べるようメニューが細分化されており、子どもたちが主体的に取り組める設計が施されています。福田教育長によると、他の自治体から赴任した教員が「ここまで踏み込んだ独自の仕組みがあるのか」と驚くほどの完成度を誇っています。



「しぐさわくん FM」の黄色いバックパネルを背に、観客を前にトークを繰り広げる森田さん。

## DX 時代だからこそ輝く「失敗」と「実体験」の価値

このように、北区をはじめ全国で教育におけるデジタル化が進んでいます。その一方で森田さんは、デジタル化のメリットなどを踏まえた上で、「デジタル化が進むほど、理科の実験のような『実体験』や『失敗』の価値がこれまで以上に高まる」として、アナログな学びの重要性を指摘しました。「動画やシミュレーションは、常に『正解』を見せてくれて便利です。ただ、実際の理科の実験では、予想外の反応が起きたり、何も変化がなかったりと、思い通りにいかないことの連続。そこで試行錯誤し、『なぜうまくいかなかったのか』を考え抜くプロセスが、深い学びになる」。そして、「アナログとデジタルの二項対立ではなく、デジタルとアナログのどちらを使用したらよいか自分で選べるようになることが大切」と続けました。



デジタルとリアルの融合についてそれぞれの視点から語り合いました。

福田教育長も自身の教員時代を例にあげ、「たとえ同じ結果でも、先生がサポートした実験と子ども自身だけで行った実験では、子どもたちの成功体験の差が大きかった」と、試行錯誤の重要性を指摘した森田さんに共感。その上で「認知（知識）は大事だが、非認知（経験）の部分はリアルでなければ得られない」と語りました。森田さんは、「デジタルが生み出した余白を、実体験や探究に充てること、学びの質を高める」と、デジタルとリアル役割分担の重要性を改めて強調しました。

## ポッドキャストが繋ぐ、新しい教育のコミュニティ

続けて、話題は森田さんがパーソナリティを務める Podcast 番組「おしゃべりな理科」へと移りました。この番組は、小学校理科の教科書の内容を深掘りするだけでなく、現場の先生方の悩みや授業のヒントを共有する場として、いま多くの教育関係者に支持されています。森田さんによると、「音声メディアは視覚メディアよりも、出演者と視聴者の『距離』が近いメディアと言われている。一緒に授業研究しているような身近さを先生方に感じてもらえているのでは」とのこと。また、福田教育長は「耳から入った情報を頭の中で視覚化しようとするプロセスは、想像力を強く刺激する非常にリッチな学習体験になる」と、音声メディアの可能性について話しました。さらにこの番組は、先生同士、あるいは学校と地域をつなぐ「新しいコミュニティ」のハブとしても機能し始めており、多忙な先生方が移動中や家事の合間に「ながら聴き」で最新の知見や他校の事例を理解することもできます。このような説明を受けて福田教育長は、誰もが等しく学びに参加できるこれからの教育現場のあり方として「ポッドキャストは非常に示唆に富む手段である」と述べました。

収録の締めくくりとして福田教育長は、「先生が知っていることを教える時代は終わった。子どもと一緒に『伴走』し、未知のことにチャレンジするマインドセットが大切」として、これからの教育の在り方を提示。森田さんは、「地域の皆様に誇りに思っただけのよう、これからもアップデートし続けたい」と意欲を語りました。

\*\*\*

さて、いかがでしたか。今回の公開収録を通じて、北区が目指す教育の姿が、単なる制度の充実ではなく、行政、学校、そして企業による「共創」であることがわかりました。正解のない時代を生きる子どもたちに多様な学びを提供するには、学校という枠組みを超え、地域や企業の知見を持ち寄ることがやはり大切ですね。

◆ 「おしゃべりな理科」はこちら。

<https://shibusawakun.fm/>

◆ しぶさわくん FM についてはこちら。

<https://shibusawakun.fm/>

◆ 「きたらっち」については東書 E ネットでも資料を掲載しています。ぜひご確認ください！

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/detail/119979/>